

金華山譜

212

千



御影石

まろや

みらのの

黄令

花々

山々の海

遊石屋



源大権現

唐路

耀々

黄令山小

如月

柳葉舎







金葉山詣

燕石齋漫筆述

夫陸奥國今之金山と

かけまくら岩

平武宮市の御時尚

山より初て美玉と負む

と云時之探是大使宿禰

道法

一原町ヨリ

二里

一今市ヨリ

二里

一塩うほヨリ

二里

女路ヨリ

一松嶋ヨリ

十八丁

一高塚ヨリ

三里

家持祝と和款と宿禰と  
 聖の時代榮えんと東  
 か多みちれく山小葉金  
 花咲是中初こか子れ最  
 初さや美る中合と通  
 一西軍相佐先河城と



小野渡場



出立候おしと誕生乃  
けえつるこ秋遊雲塔電  
松崎いたの書めて知るも  
あらぬも押靡て風雅の  
おのひと出れば舊たる松  
う枝よ咲後めくま葉ま舟も

一 小野ヨリ

二里十八丁

一 矢本ヨリ

二里十八丁

一 石巻ヨリ

一里十八丁  
川渡

一 渡波ヨリ

此所ヨリ母ミテ  
モ金吾山王行

一里十八丁  
川渡

一 岩井田ヨリ

一里

是也也疑心道はさうら  
さうらく君はよさみ書を系  
巻小巻く乃の方もうち  
忘れ行ゆきかく石の巻り  
即り爰は宿つを求えて  
よく  
羽衣の目目和山麻呂出づ宿



町卷ノ石



のあ社事一葉の東  
 作承賜ふた波塔塔名  
 一及之友名女特辨の  
 陸之教子北軒以無之  
 津浦の虫北川口以  
 争之紙之東相馬齊

蛤濱 一里  
 桃浦 一里  
 萩濱 一里  
 小積 一里  
 小網倉 一里

那の漆鋤子浦七遠小  
 及濱一葉如子及由  
 富士山都方赤川  
 白紙無漢文小舟者  
 群女中若晴眼赤  
 貝子西公門の紙子





山和目

住吉神社  
 城島家文那  
 河原家文那  
 神戶波  
 支那牧山  
 御世書  
 御世書

一 大原濱ヨリ 十二丁  
 一 給分ヨリ 十二丁  
 一 小淵濱ヨリ 一里六丁  
 一 十成ヨリ 一里  
 一 鯉川ヨリ 二十丁

松原  
 大原  
 神戶  
 支那  
 河原  
 御世書  
 御世書



住吉社



金華山

案内とびたり、岩井田邑

佐次濱をいりて小島

中尾崎神宮是と舟

中尾崎小辨天島馬乃

脊湾中草湾五、幡太郎

義家公奥あ、延徳の内

一山雉渡ヨリ  
海上北四丁

一大金寺ヨリ  
四十分

金華山真院

うと美 地の  
まの ころん  
あまの 今も  
うねを ば  
みちね

鴻馬とのりわけしと云

又乃小井、淡折の溪松溪

松の浦二と余離く田代島

細地長波島五何も人お

あ、漢耕作を二湾の園

東西と云小湾有六月の満



袖ノ渡



舟は渡秋の溪小橋濱牧の濱  
 舟は溪枕流石に掛つあり  
 寫美の浦小畑金剛之溪奈  
 溪小淵溪照よ免侍十城  
 溪新ノ溪と凡七里守の  
 海上舟は急舟と繋糸二

中興武將傳略

- 一 才 頼朝 治世 二年
- 二 才 頼家 同 五年
- 三 才 實朝 同 十七年
- 四 才 頼經 同 十八年
- 五 才 頼嗣 同 八年
- 六 才 宗尊親王 奉
- 七 才 惟康親王 奉
- 八 才 久明親王 奉

子天は起く山維流の齋を  
 其金の沖山六下守難と  
 旭は耀て観く人の舟素より  
 将くかりくの庵室あり  
 相圖の隣と持を向く架  
 途いの舟朱く林藤を名を





名が水に山を波打  
 岩の波に花をけり  
 優も人割る麻色餅と  
 乞食青丹と赤良の葉  
 こころはまじり男當  
 大徳寺の鐘と鐘と

九分 守邦親王 同  
 十分 尊世親王 同  
 十一分 成長親王 同  
 十二分 尊氏 北五年  
 十三分 義詮 同  
 十四分 義満 同  
 十五分 義持 北五年  
 十六分 義量 同  
 十七分 義教 同  
 十八分 義勝 同

体か案内に法と辨行を  
 社を津と勿所あり竜宮  
 出現のそ像として玉殿棟  
 園巻と並み合浪珠と流  
 たの結搦を流よのかし  
 皆と縁有滅津とともあり



杖山



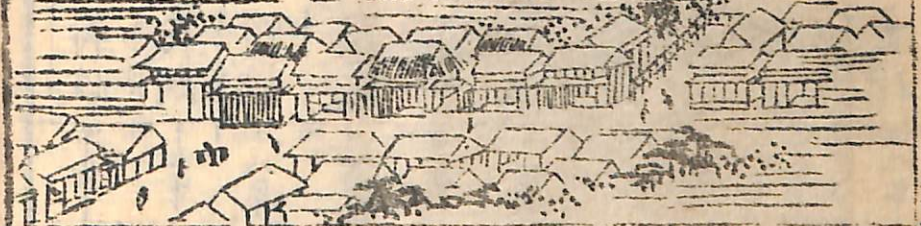
神の社滑石名神滑石  
 法大沙在禪石水神の法  
 崇山水の源より孔雀羽王  
 初現の池性音大令も好高江  
 西郡大日飛石天杓角力場  
 黄金石奥の院龍藏之社

克身 義政 甲九年  
 九身 義尚 十七年  
 六身 義植 十八年  
 五身 義澄 十四年  
 四身 義晴 十年  
 三身 義輝 十六年  
 二身 義栄 四年  
 一身 義昭 五年  
 空身 信長 甲九年  
 空身 秀信 八年

大権現是天の玉敷池喜女  
 竜王十二西観世者の垂跡也  
 水石名十三尋四十二尋  
 辨財天垂流富赤大神  
 天降の嵩山中一の神石也  
 河内石天杓の石



渡ノ渡



舟内諸天の洞換字津地  
 今乃結具舟材天常以船  
 利よと云陰陽を舟上人  
 府律不教向石山形不船  
 上人製出松抽吉あり物  
 津合浪越浪浪越大浪込

秀吉 同五年  
 秀次 同九年  
 秀頼 同十八年  
 家康公 同十四年  
 秀忠公 同十六年  
 家光公 同十九年  
 家綱公 同三十年  
 家宣公 同四十年  
 家継公 同四十年  
 吉宗公 同五十年

是と千人津と夫平也松江  
 千島と及御治地と清黄令津  
 富津津古田行者度と云難  
 西之天箱津辨と天電文と右  
 沢の地と米お津と女者もは沢  
 の地と石お津と籠石河津地



むかふ



峯山神社愛宕社と御座  
 多しとらりともこれと  
 山のさし十餘丈禁より頂  
 上峰平一鴻の地二十丈と  
 千の谷を立止の洞絶頂を  
 ともと茂林麓の花す文のさる



家重公 同 大正  
 家治公 同 大正  
 家齊公 同 大正  
 家慶公 同 大正  
 頼朝公 御相續年敷  
 文正丁五迄六百三十八年也

波岸と洗を光系城とと  
 峯の黄金の法物の系と書  
 たりがけ 諸希代の名山  
 とは心湯仰して筆と止ぬ  
 恒電福 今いらは敷河 全

昔文政八乙酉季春三月刻成  
 仙臺書林 裳華房  
 伊勢屋半右衛門藏



大正七年七月十日發行

非賣品

大正七年七月十日發行

宣統縣立市立圖書館發行

發行部刊本 二瓶松三郎

宣統縣立市立圖書館發行

發行部刊本 宣統縣立市立圖書館發行